

エコアクション21

環境活動レポート

(平成26年度)



鳶川砂防整備工事

平成27年3月20日完成

発行 平成 27年 10月 01日



株式会社 中網組

目 次

1. 組織の概要	P.	1
2. 環境方針	P.	2
3. 実施体制	P.	3
4. 環境目標とその実績	P.	4
5. 環境活動計画	P.	6
6. 環境活動の取組結果の評価、 次年度の取組内容	P.	7
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P.	8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.	9
9. その他	P.	10

1. 組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

株式会社 中 綱 組
代表取締役 羽賀 義広

2) 所在地

〒034-0036 青森県十和田市東六番町3番36号
TEL 0176-23-7175
FAX 0176-23-7173
E-mail: nakatuna@cocoa.ocn.ne.jp

3) 環境管理の責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者 専務取締役 中野渡新一 TEL 0176-23-7175
事務局担当 企画課長 広岡 隆雄 FAX 0176-23-7173

4) 事業内容

特定建設業 青森県知事許可(特-24)第872号
有効期間 平成24年6月10日～平成29年6月9日まで
建設業の種類 土木工事業 建築工事業 大工工事業 左官工事業 とび・土工事業
石工事業 屋根工事業 タイル・れんが・ブロック工事業 鋼構造物工事業
鉄筋工事業 ほ装工事業 しゅんせつ工事業 板金工事業 ガラス工事業
塗装工事業 防水工事業 内装仕上工事業 熱絶縁工事業 造園工事業
建具工事業 水道施設工事業
一般建設業 青森県知事許可(般-24)第872号
有効期間 平成24年6月10日～平成29年6月9日まで
建設業の種類 管工事業
自動車整備事業

5) 事業の規模(平成26年度)

活動規模	単位	本 社	備 考
創 業		昭和10年4月1日	
資本金		3,000万円	
売上高	百万円	604	
従業員	人	39	
延べ床面積	m ²	159	
()			

6) 事業年度(環境活動レポートの対象期間)

平成26年度(平成26年7月～平成27年6月まで)

7) 認証・登録の範囲

株式会社中綱組の全組織

2. 株式会社中綱組 環 境 方 針

【 基本理念 】

人と自然が共生する豊かな自然環境を守るために、継続的な改善活動を通して環境負荷の低減を図り、地球環境にやさしい事業活動を推進する。

【 基本方針 】

企業活動において環境保全のための目標や活動計画を定め、全社一丸となってリデュース、リユース、リサイクルに取り組む。

1. 二酸化炭素の排出削減を推進します。
2. 建設廃棄物（建設副産物）の発生抑制・リサイクルを推進します。
3. 工事現場等における節水及び適切な排水処理の実施に努めます。
4. 環境に配慮した施工方法の推進に努めます。
5. 使用資材の化学物質の適正な管理に努めます。
6. 事務用品、現場資材等のグリーン購入に努めます。
7. 環境に配慮した製品の販売、サービスの提供に努めます。
8. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
9. 環境活動レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。

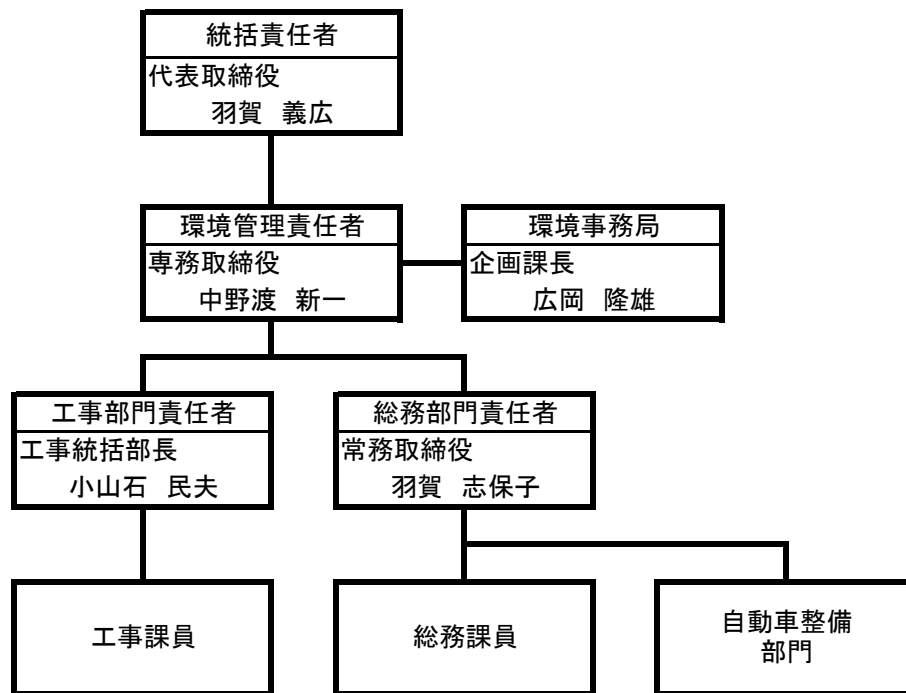
制定日：2009年7月15日

改定日：2012年7月10日

代表取締役

羽 賀 義 広

3. 実施体制



役割と責任・権限

役割	氏名	責任・権限	備考
統括責任者	代表取締役 羽賀 義広	①環境管理責任者を任命する。 ②環境管理責任者の報告を受けて全体の見直しを行う。 ③取組に対する経営資源を用意する。	
環境管理責任者	専務取締役 中野渡 新一	①環境経営システムを構築し、運用・管理を行う。 ②環境目標の達成状況をまとめ、必要な場合は是正処置を行う。 ③社員教育を実施し、環境方針の周知を図る。	
工事部門責任者	工事統括部長 小山石 民夫	①目標達成に向けた取組みの推進を図る。 ②データの収集と数値を記録し、事務局に提出する。 ③部門内目標値の把握と、課員への周知を図る。	
総務部門責任者	常務取締役 羽賀 志保子	①目標達成に向けた取組みの推進を図る。 ②データの収集と数値を記録し、事務局に提出する。 ③部門内目標値の把握と、課員への周知を図る。	
環境事務局	企画課長 広岡 隆雄	①管理責任者の業務を補佐する。 ②関連文書の記録・管理を行う。	
課員		①部門責任者からの周知を受け、目標達成に向けて活動する。	

4. 環境目標とその実績

(1) これまでの排出量の実績

当社の過去3年間の環境負荷の実績を ①電力使用量 ②化石燃料使用量 ③二酸化炭素排出量④一般廃棄物排出量 ⑤産業廃棄物排出量 ⑥排水量(水の使用量)に区分して調査し、結果を表1にまとめました。

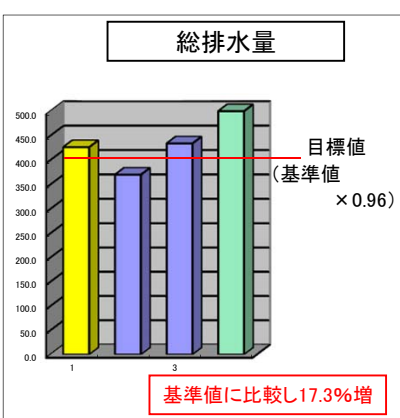
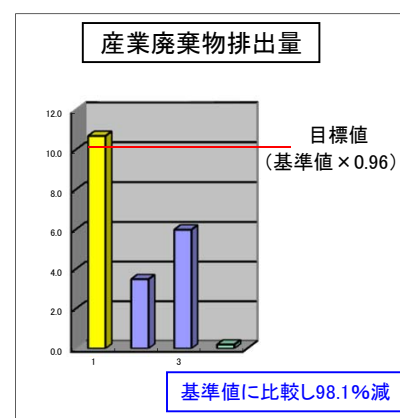
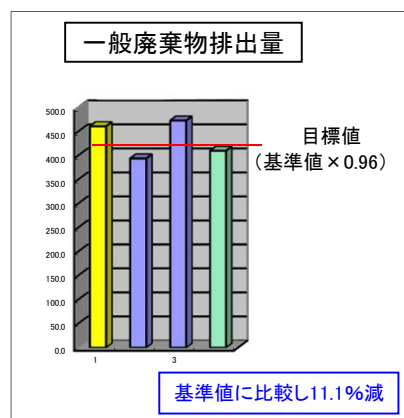
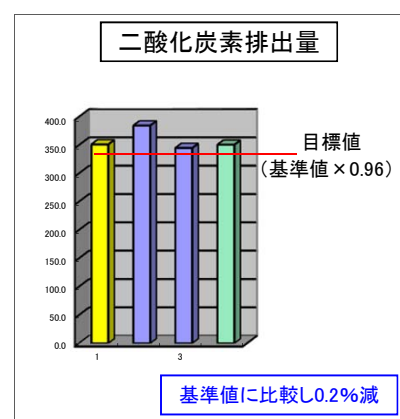
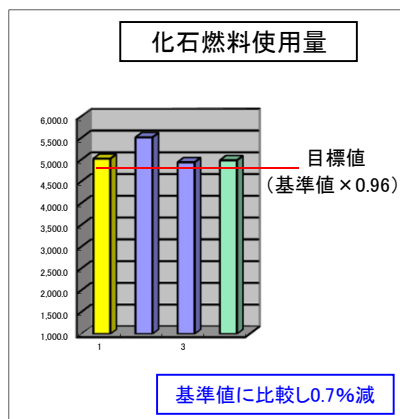
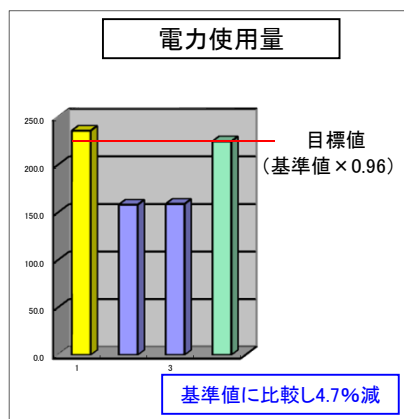
①～⑤の項目については基準値を下回り、本年度目標を達成することができましたが、⑥排水量の目標は未達成でした。

産業廃棄物は再生材・焼却処分とも、マニフェストにより適正に管理されています。

表1. 主な環境負荷等の実績

項目	単位	基準値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	基準に対する比率
① 電力使用量	$\times 10^3$ MJ	235.8	158.2	159.0	224.6	95.3%
② 化石燃料使用量	$\times 10^3$ MJ	5,027.8	5,518.3	4,947.2	4,991.6	99.3%
③ 二酸化炭素排出量	$\times 10^3$ kg-CO2	351.0	384.3	344.7	350.4	99.8%
④ 一般廃棄物排出量	kg	461.0	394.0	473.0	410.0	88.9%
⑤ 産業廃棄物排出量	t	10.7	3.5	6.0	0.2	1.9%
⑥ 総排水量	m3	426.3	370.0	434.0	500.0	117.3%
⑦ グリーン購入	万円	12.8	-	12.8	3.8	29.7%
売上高	百万円	451.3	441.0		604.0	0.0%

電力排出係数=0.468kg-CO2/kwh を使用した。



(2) 基準年度に対する環境負荷の実績と評価

当レポートは、平成26年度の環境負荷量及び目標についての評価を行います。(表2)
 まず初めに、二酸化炭素排出量は目標値に対し、103.9%と未達成でした。昨年度と比較して電力、化石燃料の使用量ともに僅かですが増加し目標未達成となってしまいました。
 電力使用量については、目標を達成したものの、前年までより増加しています。その理由は現場での発電機使用を抑制するため、電力利用を推進したことによります。今後の課題として、エコドライブの推進、アイドリングストップ・暖機運転の時間短縮を徹底するとともに、低燃費重機の活用を推進していきたいと思います。また、現場事務所においても空調の適正管理、昼光の利用促進・スイッチの適正管理を進めていきたいと思います。
 次に廃棄物排出量は、一般廃棄物は92.6%、産業廃棄物は1.9%と目標を大きく下回り達成しました。
 最後に総排水量は122.2%と目標を上回り未達成でした。使用量増加の要因としては洗車の他、新たにカーコート事業部を新設し、作業に水道水を使用する機会が多くなったことが考えられます。水道水の使用量は新規事業(カーコート事業)の利用状況を見極め、省力化に努めます。

表2. 当該年度の環境負荷等の実績及び環境目標(平成25年7月から平成26年6月まで)

項 目	単 位	基準値(3年平均) (2008~2011)	平成26年度(26.7~27.6)			評 価	
			目 標	目標値	実績値		
CO2 の 削減	電力のCO2排出削減	kg-CO2	11,069.0	△4%	10,626.2	9,629.1	○
	燃料のCO2排出削減	kg-CO2	339,981.0	△4%	326,381.8	340,785.0	×
	二酸化酸素排出量合計	kg-CO2	351,050.0	△4%	337,008.0	350,414.1	×
廃棄物 の削減	一般廃棄物の削減	kg	461.0	△4%	442.6	410.0	○
	産業廃棄物の削減	t	10.7	△4%	10.3	0.2	○
総排水量の削減(節水)		m ³	426.0	△4%	409.0	500.0	×

(3) 環境目標の設定

環境目標については、2008~2010年の3年平均を基準値として活動に取り組み、毎年1%ずつ目標値を下げて、平成26年度は、基準値に対して全ての項目で4%以上の削減を目指して環境活動を行いました。書類審査により環境目標値が現状に合わず見直しを指摘されましたので、平成27年度は2012~2014年の3年平均を基準値として活動に取り組みます。目標は基準値に対し、全ての項目で1%以上の削減を目指し改善活動を推進していきます。

表3. 環境目標

項 目	単 位	基準値(3年平均) (2008~2011)	目 標			
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	
CO2 の 削減	電力のCO2排出削減	kg-CO2	11,069.0	△4%	基準値×△1%	基準値×△2%
	燃料のCO2排出削減	kg-CO2	339,981.0	△4%	基準値×△1%	基準値×△2%
	二酸化酸素排出量合計	kg-CO2	351,050.0	△4%	基準値×△1%	基準値×△2%
廃棄物 の削減	一般廃棄物の削減	kg	461.0	△4%	基準値×△1%	基準値×△2%
	産業廃棄物の削減	t	10.7	△4%	基準値×△1%	基準値×△2%
総排水量の削減(節水)		m ³	426.0	△4%	基準値×△1%	基準値×△2%

5. 環境活動計画

取組計画	取組内容	備考
電力の削減	・昼光の利用促進、スイッチの適正管理	
	・夜間のPC・コピー機の電源OFFの徹底	
	・空調の適温化の徹底	
	(冷房28℃、暖房20℃程度の徹底)	
	・エアコン使用日数の削減	
	・消費電力の省力化	
	・NO残業DAYの推進	
	・クールビズの推進	
	・低消費電力製品への切り替え	
軽油・ガソリン・灯油 使用量の削減	・アイドリングストップの管理	
	・暖気運転の時間短縮を図る	
	・車両点検整備の徹底	
	・エコカーの導入の検討	
一般廃棄物の削減	・ミスコピー紙の再利用	
	・電子文書管理の促進	
	・FAX利用の制限	
	・資源ごみの分別回収の徹底	
産業廃棄物の削減	・マニフェストによる適正処理の確認	
	・再生材の利用促進	
	・仮設材の再利用の推進	
	・発生材の減量化と再利用の推進	
節水	・節水運動の徹底	
	・洗車時の流し洗いの短縮	
	・雨水利用システムの検討	

6. 環境活動の取組み結果の評価、次年度の取組内容

1) 環境活動の取組み結果の評価

今回は、平成26年7月から平成27年6月までの目標とその実績について、評価を行いました。

電力の削減、軽油・ガソリン・灯油の使用量の削減等の取組結果の評価については、次表に掲げるとおりです。

また、一般廃棄物・産業廃棄物の削減の取組みおよび節水の取組結果も次表のとおりです。

取組計画	達成状況		単位	評価 次年度の取組内容
	基準年	実績		
電力の削減 ・空調の適温化 ・NO残業DAYの推進 ・昼光の利用、スイッチの適正管理 ・PC、コピー機の電源OFF徹底 ・クールビズの推進	基準年	11,069	kg-CO ₂	目標の90.6%と達成
	目標	10,626		電力の目標は達成されていますが、前年度より増加しているため、取組活動を推進して次年度も目標達成するように努力します。
	(96%)	(Δ4%)		
	実績	9,629		
軽油・ガソリン・灯油の使用量削減 ・アイドリングストップの促進 ・暖気運転の時間短縮	基準年	339,981	kg-CO ₂	目標の104.4%と未達成
	目標	326,382		目標未達成となりました。その理由として昨年度と比較し、手持ち工事が多かったことが考えられます。
	(96%)	(Δ4%)		次年度は、重機械の暖気運転の短縮、アイドリングストップなどを徹底するとともに舗装工事以外のガスの使用等について抑制できるように対策をたてます。
	実績	340,785		
一般廃棄物の削減 ・分別ボックスの設置 ・ミスコピー紙の裏使用 ・ブルタブ貯蓄の実施	基準年	461	kg	目標の92.6%と達成
	目標	443		一般廃棄物は、毎月27～44kgの排出となっており、概ね40kg平均となっています。
	(96%)	(Δ4%)		月によるばらつきはあるものの、両面印刷やミスコピー用紙の再利用が定着している結果と思われます。
	実績	410		これからも一般廃棄物の発生量の抑制に努めます。
産業廃棄物の削減 ・マニフェストによる適正な処理 ・再生材の利用促進 ・仮設資機材の再使用促進	基準年	10,700	kg	目標の1.9%と達成
	目標	10,272		目標は達成されており、産業廃棄物の再資源化、再生材の利用促進が定着していると思われます。
	(96%)	(Δ4%)		
	実績	200		今後は、継続して減量化と再資源化率向上に努めます。
節水 ・洗車時の流し洗いの短縮 ・水を出しっぱなしにしない	基準年	426	m ³	目標の122.2%と未達成
	目標	409		目標未達成となり、使用量が増加しました。要因としてはカーコート事業部が新設され、水道水を使用する頻度が増加したためと考えられます。
	(96%)	(Δ4%)		
	実績	500		

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける廃棄物処理法・振動規制法・騒音規制法など、環境関連法規について遵守状況を確認したところ、違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反の指摘、住民等からの苦情・訴訟について確認したところ、問題はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

平成26年度の環境活動を振り返ってみると、平成25年度に目標が未達成であった電力、軽油・ガソリン・灯油、一般廃棄物、水の使用量において改善活動の成果が表れて、本年度目標達成の項目が増加しました。

節水については、新規事業の取組みにより水を使用することから未達成とはなってしまいましたが、会社全体としては一歩前進し、満足できる結果であったと評価しています。

次年度においては、現在の方針を変更せず、節水については新規事業との関連もあることから、データーの分析を行い、改善活動を進めていきます。

また、重機・車両は、長年大切に使用しているため資源の有効活用になっていますが、計画的に廃車や新車購入を行い、化石燃料と二酸化炭素排出量の削減を推進していきたいと思えます。

(平成27年度、1台重機処分、4tユニック車は旧式の車を処分し、新車購入予定)

9. その他

社内教育等

社長の環境活動教育(平成26年7月)



社員教育(平成27年1月)上半期実績の概要等



社員教育(平成27年5月)ビデオ使用による教育



地域貢献及びボランティア活動

国道102号クリーンロード(平成26年8月)



鳶の清掃活動(平成26年11月)

